

幸福を、平和を、豊かな心を、カンボジアの友と分かち合おう

Angkor Wat

アンコールワット

発行日:2024年(令和6年)7月1日

会報 第135号

事務局移転のお知らせ

この度、根岸理事長が東京練馬区から自宅の埼玉県深谷市に転居しましたので、これに合わせ本会事務局も同所に移転しました。近くにお越しの際はお立ち寄りください。

【新住所】〒369-1246 埼玉県深谷市小前田1552-1

【TEL】048-580-7048 【FAX】048-580-7049

(旧住所＝東京都練馬区豊玉上2-25-7-203)

3月20日～4月16日、カンボジアを訪問しました。昨年この時期に訪問したのですが、とても暑かったことを覚えています。2年連続でカンボジアが最も暑いこの時期に訪問しましたが、昨年を上回る暑さに閉口しました。カンボジア人も年々暑くなっていると言っていました。地球温暖化は世界の課題になっています。

年齢的なこともありそうです。70代後半になると、猛暑は体に堪えますね。約1か月間、日中40度の国で暮らすのは大変です。健康のためにも来年からは、比較的涼しい11月～2月の訪問を考えています。

さて今旅も、会員さんがそれぞれ目的を持ちカンボジアを訪問してくれました。里子訪問、学校訪問、各贈呈式への参加など、とても有意義な日々を過ごしました。初めて訪問された方、久しぶりの方など、生の

25年間暮らした練馬区を後にします

カンボジアを体験され有意義だったに相違ありません。

円安や物価高騰、直行便運休など悪条件ばかりですが、それでも来てくれる皆さんには唯々感謝あるのみです。

私が初めて訪れた30年前と比較すれば、格段の差で生活レベルが上がっているカンボジアですが、それでも地方に行けば行くほど貧しい村が現存していて、都市と地方の格差が広がっているようにも見受けられます。まだまだ引退できませんね。

帰国後、定期総会や「カンボジアフェスティバル」への参加と、重要なイベントが目白押しでしたが、残るは事務局の移転です。

この会報が皆様のお手元に届く頃には、埼玉県深谷市に事務局が移転されているかと思いますが、本会創設後ずっとお世話



子どもたちの笑顔に勝るものはありません

NPO法人 21世紀のカンボジアを支援する会
理事長 根岸恒次

になった練馬区を去るのは感慨深いものがあります。

長いようであつという間だった気もする25年間、新天地でも心機一転して頑張ります。引き続きご支援くださいませ。



「カンボジアフェスティバル2024」に今年も参加

5月3日～4日、東京都内の「代々木公園イベント広場」で開催された「カンボジアフェスティバル2024」に今年も参加した。コロナ禍で3年間中止だったが、昨年復活した。

幸い両日とも好天に恵まれ、多くの来場者でにぎわった。

本会のテント内に並べたスカーフやTシャツなどのカンボジア製品を販売し、活動資金に充当した。

カンボジア製品の販売や広報活動で会員さんが手伝ってくれ、激励のため多くの会員さんがテントを訪問してくれた。

ステージではカンボジア古典舞踊「アプサラ」などが披露され、カンボジア料理店は行列ができるほど盛況だった。

来年もこの時期に行われる予定、機会があれば一度足を運んでみませんか。



手伝ってくれた会員の皆さん(5月3日)



シェムリアップ州に小学校の校舎完成贈呈式行われる

「世界の恵まれない地域に小学校を作る会」(新潟市秋葉区・石川幸夫代表)及び「日本ライオンズクラブ」の資金協力で、カンボジアのシェムリアップ州に建設中だった小学校校舎(ルセイロック小学校・生徒数=70人)がこのほど完成、3月24日に贈呈式を行なった。

贈呈式には日本から「世界の恵まれない地域に小学校を作る会」の石川幸夫代表以下8名が出席、本会から根岸理事長以下4名が出席した。地元からはビセッ郡長を始め多くの教育関係者、村人、生徒らが出席した。

贈呈式の冒頭に、地元の子どもたちによるカンボジア古典舞踊が披露され花を添えた。お返しにと、新潟から参加した若いメンバーがマジックショーや歌と踊りのパフォーマンスを披露してくれた。

校舎はレンガブロック作りの平屋建て2教室。木造作りの老朽化した校舎に代わり、快適な新校舎で学べる生徒たちは喜びひとしおだった。

併せて、小杉啓子様(神奈川県在住の協力者)が寄贈した井戸、及び「札幌市稲高等学校家庭クラブ」の皆さんが寄贈したトイレ棟の贈呈式も行った。

その日の夜、同団体と本会のメンバー(12名)がシェムリアップ市内のレストランで、カンボジア古典舞踊を観ながら懇親のひとときを持った。



新校舎の前で生徒たちと

感謝状を受け取る
石川代表(左)きれいな水がたくさん
出ましたトイレ棟の前で
子どもたちと

カンボジアの子どもたちをサポートしてください

クメール教育里親会員募集

長かった内戦が終わって平和になったカンボジアですが、国の復興はなかなか進まず、多くの人々は貧困に苦しんでいます。特に農村では、貧しかったり親を亡くしたりして学校へすら行けない子どもや、学校へ行けても途中でやめてしまう子どもが後を断ちません。

本会では、農村の子どもたちが学校へ行けるようにと、教育資金をサポートしてくれる里親さんを募集しております。

思えば79年前、敗戦して焦土となった日本を救ってくれたのは、諸外国からの援助でした。カンボジアも食料援助をしてくださいました。日本の子どもたちもその恩恵を受け学校に行けるようになりました。豊かになった私たちが、今度は困っているアジアの子どもたちを支援する番です。

※お友達グループや職場など、グループ単位でサポートしていただくこともできます。

里親さんありがとう



【教育里親会費】 子ども1人につき 1年間3万円。

(活動のための諸費用含む)

- ・子どもへの直接支援額を高めるよう努力しております。
- ・一括納入、分割納入(毎月、年2回)のどちらでも可。
- ・所定の郵便振替用紙を使いお振込みください。

【支援する期間】 ・少なくとも子どもが学校を卒業するまでの間、支援して頂けたら幸いです。やむを得ず子どもが中退する場合もありますが、その際は別な子どもの支援をお願い申し上げます。

【子どもとの交流】 ・子どもからは概ね6ヶ月に1度、近況を報告する手紙(日本語に翻訳)と写真が届きます。

・里親から手紙、プレゼントを届けることができます。

(子どもから写真とお礼の手紙が届きます)

多くの会員さんがカンボジアを訪問しました

根岸理事長がカンボジア滞在中、今回も多くの会員さんらが来訪してくれた。各人がそれぞれ目的を持ち、支援活動に力を注いでくれた。感謝！

○佐々木英介さん(東京都在住の会員)

3月21日～4月6日、里子訪問、学校訪問、贈呈式出席、リサーチ活動。

○宮下隆さん(東京都在住の会員)

3月20日～27日、里子訪問、学校訪問、贈呈式出席。

○五井瑞枝さん(神奈川県在住の会員)

3月26日～4月6日、里子訪問、学校訪問、贈呈式出席。

○島田知美さん(シンガポール在住の会員)

4月2日～5日、里子訪問、贈呈式出席。

○園田美代子さん・森尻房子さん(群馬県在住の会員)

里子訪問、学校訪問、贈呈式出席。

○佃絹代さんとその家族(4人・福井県在住の会員)

里子訪問、学校訪問、贈呈式出席、アンコールワット観光。

○菊池和雄さん・雨沢久男さん・茨城県在住の会員

里子訪問、学校訪問、贈呈式出席、アンコールワット観光。

○スピリチュアルコーディネーター協会の桜井さん、

鶴見さん(東京都在住の団体会員)

学校訪問、贈呈式出席、大臣表敬訪問。

○石川桂さんとその友人(4人・愛知県在住の協力者)

学校訪問、贈呈式出席、大臣表敬訪問。



⇒里子訪問した
佐々木さん



⇒シンガポールから
参加した島田さん(右)



⇒福井県から参加した
佃さん(中央)



⇒子どもたちが大好きな
五井さん



⇒5年ぶりに訪問した
園田さん(右)と
森尻さん(左)



⇒2週間滞在した
菊池さん(右)と
雨沢さん(左)

■「カンボジア教育支援西予」が2つの小学校に遊具寄贈

広瀬稔さん(愛媛県西予市の会員)が代表を務める「カンボジア教育支援西予」が、カンボジアの2つの小学校に遊具が寄贈してくれた。4月5日、根岸理事長始め数名の会員さんが同行し、贈呈式を行った。

広瀬さんは、カンボジアの小学校に井戸や遊具を贈るため、地元西予市で金属類等を回収して資金を集めている。こうした地味な活動が本会を支えている。感謝あるのみ。



金属回収で遊具を寄贈

■「味の素グループ労働組合」が4つの小学校に遊具寄贈

本会とタイアップして、カンボジアの小学校に校舎や遊具を寄贈している「味の素グループ労働組合」(本部＝東京都中央区京橋)、今年度はカンボジアの4つの小学校に遊具を寄贈してくれた。



4つの小学校に寄贈しました

3月22日と26日、根岸理事長始め数名の会員さんが小学校を訪問し、遊具の贈呈式を行った。遊具は、滑り台、ブランコ、回転遊具の3種類。

寄贈する小学校の選定にあたり幼稚園併設を条件としているので、どの小学校も幼稚園児の可愛い声が校庭に響いていた。

■「スピリチュアルコーディネーター協会」が遊具寄贈



団体代表の桜井さん(中央)

一般社団法人「スピリチュアルコーディネーター協会」(本部＝東京都港区南青山・団体会員)がカンボジアの小学校に遊具を寄贈してくれた。

4月8日、同団体の桜井さんと鶴見さんが小学校を訪問、贈呈式を行った。根岸理事長も同行した。

同団体の桜井さんと鶴見さんは数日間滞在、メコン川ディナークルーズなどで会員さんと交流したり、シアン・ブンレン大臣の表敬訪問にも同行してくれた。

■ 12年前校舎を寄贈した小学校に遊具寄贈



村人と懇談する石川さん

12年前に石川桂さん(愛知県在住の協力者)が「トロパントム小学校」(コンポンチャム州・生徒数＝180人)に校舎と図書館を寄贈したが、このほど同小学校に石川さんが遊具を寄贈してくれた。

4月9日、石川さんと友人ら4人が同小学校を訪問、遊具の贈呈式を行った。生徒には学用品セットを差し上げ、地元住民には日本から持参した目薬などを差し上げて喜ばれた。

■ 9年前校舎を寄贈した小学校に遊具寄贈

9年前、宮下隆さん(東京都在住の会員)がシェムリアップ州の小学校に校舎や井戸等を寄贈したが、3月25日に宮下さんが同校を訪問、回転遊具や図書、サッカーボールを寄贈、生徒全員に学用品セットを差し上げた。

コロナ禍で訪問できなかったが5年ぶりに訪問、生徒のくったくのない笑顔に接し、安心した様子だった。



回転遊具を寄贈した宮下さん

■ 僻村の小学校に井戸を寄贈

山内幸子さん(秋田県在住の会員)が、カンボジアの僻村にある小学校に井戸を寄贈してくれた。4月6日、根岸理事長と現地スタッフが小学校を訪問し、贈呈式を行った。

井戸を贈呈したのは「チーウ小学校」(クラチェ州・生徒数70人)、プノンペンから車で5時間かかる僻村の小学校。小さな木造校舎も老朽化していた。



僻村の小さな小学校に井戸が完成

■ 匿名でカンボジアの小学校に児童図書寄贈



4つの小学校に児童図書寄贈

根岸理事長の古い友人から、匿名でカンボジアの小学校に児童図書を贈りたいと依頼され、3月27日～4月3日の里子訪問時、図書室のある4つの小学校に児童図書を寄贈した。

寄贈者の意向で政治色のある本を避け、教育的要素の高いカンボジアの民話などを中心に、各50冊ずつ寄贈した。本を読む習慣が残るカンボジアの子どもたちにとり、最高の贈り物になった。

■ 村の子どもたちにぬいぐるみと布製品を寄贈



ぬいぐるみをもらい喜ぶ子どもたち

3月27日～4月3日の里子訪問に根岸理事長ほか会員さん数名が同行したおり、船便で現地に送った会員さんからのプレゼントを、村の子どもたちに届けた。

加藤知恵子さん(埼玉県在住の会員)が送ってくれたぬいぐるみと、山本信子さん(山口県在住の会員)が送ってくれた手作りの布製品など。子どもたちは、思わぬプレゼントを喜んでいた。



里子へのプレゼントは 随時受け付けています



- 国内では円安、現地カンボジアにおきましては物価が高騰しておりますので、やむを得ず里子へのプレゼント代を今年から下記の通りに値上げさせていただきます。どうぞご理解のほど、よろしくお願い申し上げます。
- 事務局に届いた里子プレゼントにつきましては、年に1～2回程度になりますので、空港から持参させて頂きます。暫くお時間を頂きますので、なるべく海外送金可能な現金をお送りください。
(里子への手紙はメールで現地に送らせていただきます)

現地購入品目一覧表(振込票にてご送金お願いいたします)

- 自転車(中古品) 9,500円
- お米(50キロ入り) 5,500円
- 通学用カバン 3,500円
- ティシャツ2枚&サンダルセット 2,500円
- お菓子セット(お菓子の詰め合わせ) 1,500円
- 文房具セット(ノート、筆記用具類) 1,500円

※上記の代金は、現地での物品調達や里子に届けるための車代(ガソリン代)等の諸経費として、原価に10%を上乗せしております。

※教育里親が現地に行き、里子にプレゼントを直接届ける場合は、原価での購入になります。

里子への教育支援金を 隔月に届けています

本会のプノンペン事務所では、教育里子が通学する小学校(現在25校)を現地スタッフが隔月に訪問、教育里親より頂戴した年会費の中から6回に分け、カンボジア通貨(リエル)に換金して教育支援金を届けている。

中学校、高等学校に通う教育里子も卒業した小学校に集まり、支援金を受け取っている。

3月27日～4月3日の間に2月分と3月分を、2人の現地スタッフ(ドライバー含む)が各小学校を訪問し、教育支援金と教育里親さんからのプレゼントを届けた。根岸理事長ら数人の会員さんが同行した。



教育資金を届けました

カンボジアの小・中・高校では、昨年12月に新学期が始まり、教育里子たちも元気に学んでいる。3月27日～4月3日、現地スタッフの里子訪問に、根岸理事長ほか会員さん数名が同行した。234人の里子は25の小学校で学んでいるため、1週間かけ車で各小学校を巡り、教育支援金や里親さんからのプレゼントを里子に届けた。今旅で、スマホのラインビデオ機能を使い、日本にいる里親さんとカンボジアで暮らす里子との会話交流が実現した。今までZoomを使っていたが、里親さんにはハードルが高かったようだ。ラインなら日常生活に浸透していて使いやすいので、以後この方法で里子交流を推し進めていきたい。

ラインビデオを使い 里子と交流



本会では、病気や事故、親の離婚などにより両親や片親をなくしたり、親がいても貧しい家庭環境にあるカンボジアの子どもたちが安心して学ぶことができるよう、2003年に「クメール教育里親基金」を創設、現在234人(4月末日現在)の子どもたちを教育支援している。

クメール教育里親基金活動レポート

投稿

すぐにでも行きたくなる 摩訶不思議な国「カンボジア」

園田 美代子(群馬県在住 会員)

4月2日～8日、カンボジアを訪問しました。

2003年、初めてカンボジアを訪問しました。コロナ禍を経て5年ぶりのカンボジアは、何もかもが激変していました。でも変わらないのは子どもたちの「笑顔」と人々のたくましく「働く姿」。目立ったのは車やトゥクトゥクの多さと、ヤギみたいな牛でした(笑)

今回の活動メニューは、学校訪問、里子訪問、遊具の贈呈式など。活躍している会員の皆様には頭が下がります。

昔の歌にあった「私に羽根があったなら、カンボジアに飛んで行きたいな～キューピットではないけれど、皆に幸せあげたいな!」と。まだカンボジアの子どもたちには支援が必要、色々な形でサポートしたいと思いました。

私は入会当初、里子支援金が実際に届いているのか?子どもたちの生活状態は?と分からないことが多かったのですが、ならば現地に行ってみようと思い正解でした。

本当に信頼できる会と確信し、今まで何度も足を運んでいます。暑い!遠い!難儀だけど、またすぐにでも行きたくなる摩訶不思議な国です。

余談ですが、夜のメコン川ディナークルーズで夜景を観ながら食事し、外国の人々と輪になって踊ったダンスは楽しくて最高でした。最後に皆さん大変お世話になり、ありがとうございました。



楽しかったメコン川ディナークルーズ

投稿

貧しい家に植えられたみずみずしく青いマンゴー

大黒 幸美



母が支援する里子訪問に同行

母が長年お世話になっていた会の旅に、今回、娘の私、夫、中学生の息子の家族3人が同行させてもらえることとなりました。正直、出発前は、アンコールワットへの物見遊山の気持ちの方が勝っていたのですがカンボジアの照りつける太陽の元、私の旅は、“支援とは何か”を考える旅となりました。

母が支援する17歳の少年の自宅訪問に同行しました。驚くほど質素な家に立っているその少年は、言葉の通じない日本人に囲まれてとても緊張している様子でした。彼は、経済的な理由で学ぶことを諦めなくてはならなかったかも知れない境遇であり、また、学ぶことの意味を知るためには、とても貧弱な環境だということが少年に会い、直ぐに分かりました。

同じ年頃のわが子は、溢れる情報の中で、自身の希望となる情報を得て未来を選択することが可能です。社会を真摯に渡ってきた大人や、先輩もすぐそばにいて、息子に助言を与えてくれます。けれどその少年は、息子に比べると孤独に見えました。

経済的な支援は言わずもがなですが、支援とはそれだけではなく、彼らの学ぶ意欲を育て、励ますことも不可欠だと考えます。硬い表情を崩せない少年を前に、ふと思い浮かんだのは、私自身も父が早くに他界し、奨学金を受けて大学に進学したことです。あの時、経済的な支援を受けたことによって未来が広がり、現在こうして家族3人でカンボジアを訪問できるまでになれたことは確かです。

しかし、恥かしながら、学生時代にそこまで必死で勉強したとは言い難いです。それでも今があるのは、魅力的な友人、尊敬する先生たちの生き方に影響を受け、それらに励まされたことがあったからだと考えます。その環境の中で目的を見つけ、学び続けることができたことも、私の財産目録で輝いています。

私は今、かつて自分が受けたエールを、そろそろ還元しなくてはならない時期がやってきたのだと思います。少年の目に、私たちはどう映っているのでしょうか。こうして日本から会いに来たことは、経済的な支援を行うだけの存在ではなく、あなたは決して孤独ではないのだよ、と感じてもらうために事務局の方に通訳してもらいながら思いを伝えました。

ほんの短い時間でしたが、これが彼にとってエールになれば、またいつか、彼も同じことを後輩たちに広げてくれるのではないかと考えます。

投稿

カンボジアでも目につく 中国経済停滞の影響

佐々木英介(東京都在住 会員)



一時期第2のマカオとして注目されたしていたシアヌークビルで、高層ビル群の建設が中国経済の停滞によって突然止まり、未完成や未使用のまま放置されているビルが、現地に約500棟以上あることは報道によってご存じの方もいらっしゃると思いますが、首都プノンペンでも同様なビルをあらわにこちらで見かけます。

未完成の高層ビル群 シアヌークビル

政府もさすがに放置したままにしておくわけにもいかず、予算を組んだり税免除や許可申請の優遇措置を発表した甲斐あつてか、この3月に私達が訪れた時には建設が再開されだしたビルも見かけられるようになってきました。

とはいえ、これまで開発のほとんどを中国に依存していた政府にとって、急遽海外からの投資を募りはしたものの余りに大きなその穴を埋めるのは難しく、新たに追加予算の試算に迫られているようです。

パンデミックによる規制が解除され、アンコール遺跡のあるシエムリアップでは既に、以前に近い数の外国人旅行者が戻ってきているようですが、中国人旅行者数となるといまだに足踏み状態が続いているようです。

プノンペン市内も同様で、中国語の看板はそのまま多く見られるものの、以前ならばどこにでもいた中国人の姿があまり目立たなくなっています。

既に開港予定が2023年から2025年へとずれ込んでいる新プノンペン国際空港は、第1期工事が2月末時点で何とか66%くらいまで進んだとは言え、空港と市街を繋ぐ高速道路建設も大幅に遅れ、鉄道などはまだ着工すらされていない状態で、昨年着工したベトナムと繋がる第2の高速道路やタイとの国境を目指す第3の高速道路計画、そして隣国や港を繋ぐ鉄道網など、中国政府の「一帯一路」政策の下で計画されたカンボジアでの大プロジェクトに、今や黄色信号が灯されている状態となっています。

昨年就任したフン・マネット首相は、就任直後には中国を訪れて友好関係の確認をしたものの、その後のASEAN会議などでアメリカや日本を含む加盟国首脳たちと個別に会談してカンボジアの投資を促したりしているよう、これまでの中国一辺倒政策に危機感を持ち出しているように見えます。

2010年頃から中国の影響下で急速に近代化を押し進めてきたカンボジアではありますが、ここへ来て再び方向転換が始まる可能性を秘めています。そして私達も、今後これらの動向を見定めながら効率的な支援活動を行う必要があります。

本会の会員状況をお知らせいたします

(2024年4月末日現在)

●教育里親会員

●個人会員

●団体会員

●寄付協力者(随時)

合計

175名

63名

11団体

61名

310名

書き損じハガキ・未使用切手

・商品券等をお送りくださいませ

本会では、書き損じハガキ・未使用の切手やビール券やデパートの商品券を集め、活動資金にしております。皆様の家に眠っているものがございましたら、ぜひ、ご協力くださいますよう、よろしくお願い致します。普通郵便で事務局へお送りください。

事務局便り

●昨年末にお願いしました「お年玉募金」ですが、約20万円の寄付が集まりました。ありがとうございます。現地の教育支援活動に充当させていただきます。

●3月20日〜4月16日、根岸理事長ほか会員さんらがカンボジアを訪問しましたが、その時の写真(一部動画)をスライドにしホームページにアップしましたので、ご覧ください。

●ご案内の通り、本会事務局を都内練馬区から埼玉県深谷市に移転しました。深谷市といっても町村合併前は花園町で、関越自動車道花園インターから車で10分、秩父鉄道小前田駅から徒歩5分です。最近近所は近所にアウトレットができましたので、近くにお越しの際は立ち寄りください。

●5月3日〜4日、都内の代々木公園イベント広場で開催された「カンボジアフェスティバル」でカンボジア製品を販売、約14万円の売り上げがありました。仕入れや会場費等を差し引き、5万円を寄付金に計上しました。ご協力ありがとうございました。

活動に参加しませんか

正会員として

●教育里親会員(年額3万円)
子どもたちへ直接払う年額
1万2千6百円(42%)
会の運営に回す年額
1万7千4百円(58%)

●個人会員(年額5千円)

●団体会員(年額1万円)

寄付金

当会の活動に賛同いただける方からの寄付金も受付しております。

●会費・寄付金の送付は、銀行振込、郵便振替、現金書留で。

【口座名】
21世紀のカンボジアを支援する会

【ゆうちょ銀行】
019支店 当座0160916

【りそな銀行】
練馬支店 普通4098235

●ゆうちょ銀行の自動引き落としをご希望の方は事務局へご連絡ください。

●会員の皆様には、隔月発行する本会の会報「アンコールワット」を発行の都度郵送します。

春さんのカンボジアレポート

～カンボジアのクメール正月～

カンボジアは、今年は4月13日から16日まで4日間のクメール正月を祝いました。今年の辰年は、4月13日22時24分に始まり、4月16日まででした。新年の天使は、カベル・モハ・ブルムの七女、モホルトレア・デヴィです。

ノロドム・シハモニ国王陛下は「クメール新年は、国家の団結と保存、伝統と習慣の保護と愛の精神を育み、クメール文明を促進する上で非常に重要なお祭りです」と述べられています。

人々はお寺に参拝し全土で祝います。シェムリアップには、約100万人の観光客が訪れ、王宮公園には大群衆が押し寄せ、上空にはドローン500機が飛び、様々な絵や文字を描きました。

2016年から隣国タイ等の水祭りが取り入れられた水掛け合戦が、今では主要な行事になり街中が水掛け、否、水浴びで熱狂します。

因みに11月の「水祭り」ではボートレースが主で、水掛けはありません。

写真出典 KhmrTimes

水掛け群衆

理事・会員 鈴木春男(カンボジア・シェムリアップ在住)

第22回定期総会をオンラインで開催

4月27日(土)10〜12時、第22回定期総会をオンラインで開催、9名の会員さんが出席した。委任状も会員総数の過半数以上頂いた。

冒頭、根岸理事長から会の近況や今後の方向性について報告があった。

その後審議に入り、昨年度の活動報告と決算、今年度の活動計画と予算、今年度〜来年度の役員選出、住所変更に伴う定款変更について審議、すべて承認された。

理事には根岸恒次会員、平古場正行会員、及川英博会員、鈴木春男会員、根岸昭博会員、向田三代子会員の6名、監事には増田環会員が選出された。

最後に、3月20日〜4月16日に根岸理事長らがカンボジアを訪問した時のスライドを上映した。

続いて新メンバーで理事会を開催、理事長に根岸恒次会員が、副理事長に平古場正行会員が選出された。任期は2年間。

オンライン定期総会

投稿 5年ぶりに学校を訪ねました

宮下 隆(東京都在住 会員)

10年前に退職し、ふと立ち寄った調布での「カンボジアの子どもたち」写真展が、この会との出会いでした。

翌年、井戸が出来たというので初めてカンボジアを訪ねました。シェムリアップから延々3時間、土けむりの中をたどり着くと原野に井戸がポツンと立っていました。学校は青空教室、スクールが来れば中断です。

一念発起し、退職金をつぎ込んで学校を寄贈させていただきました。

今回、理事長がシェムリアップ方面にも向かうことを知り、同行させていただく事になりました。コロナで5年ぶりに訪ねると原野はキャッサバ畑(タピオカの原料)に変わり、学校は若い木々に囲まれていました。変わらないのは手を合わせて迎えてくれる子どもたちの屈託のない笑顔、嬉しくなりました。

学校には幼い子どもたちが多く、聞けば保育園ができる由。しかも村人たちが園舎を建てようと、木材を用意していました。他から与えられることを待つのではなく、教育の大切さを知り自分たちの手で発展させようとしている姿に感動しました。

今は発展途上の国ですが、どんなに発展しようが手を合わせ感謝の心を忘れない子どもたちが育って欲しいと願いながら、帰途に着きました。

懐かしき1枚

2009年3月5日、カンボジア・コンポンチャム州内の小学校で行われた校舎贈呈式の会場に向かう面々。寄贈者の辻さん(故人)、副理事長だった佃井さん(故人)のお姿も見受けられます。中央の根岸理事長は当時まだ59歳でした。

懐かしき皆さん

写真提供:遠藤 啓会員

教育里親会員 入会申込書

年 月 日

氏名	ふりがな	生年月日	年 月 日
住所	〒 (TEL)		
備考	1. サポートして下さる子どもの人数 [] 人 2. サポートして下さる子どもの性別 ① 男の子 ② 女の子 ③ どちらでも 3. その他 [具体的に]		

*入会して下さる方は所定の事項をご記入のうえ、本会事務局までお送りください。